

# 国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況について

国土交通省国土技術政策総合研究所建設マネジメント技術研究室

つかはら たかお  
主任研究官 塚原 隆夫

## 1. はじめに

国土交通省においては、平成17年4月の「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の施行以降、総合評価方式の適用拡大を図り、平成20年度からは原則実施に至っております。

このような中、国土技術政策総合研究所においては、国土交通省直轄工事における総合評価方式のさらなる改善に向けた検討に資するよう、総合評価方式を適用した工事における落札者の状況や

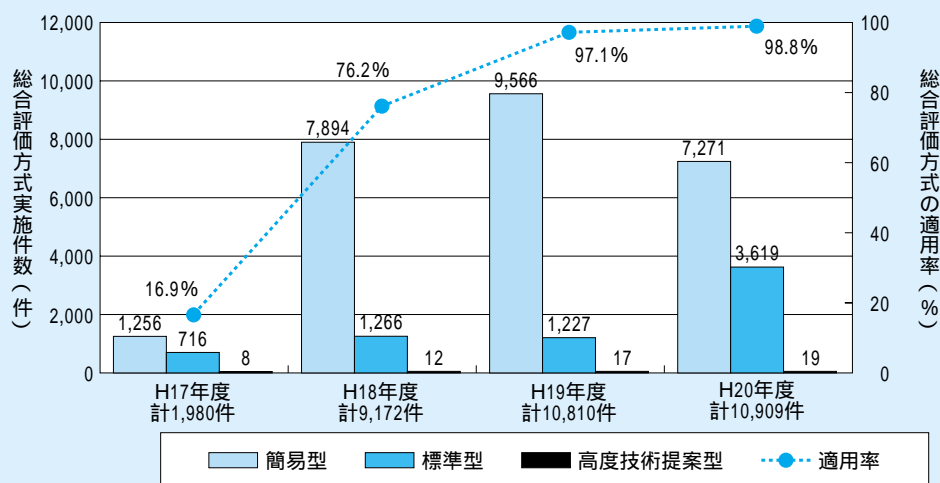
新たに実施することとなった施策のフォローアップ等、当該総合評価方式の実施状況について調査を行っております。

本稿においては、上記実施状況を調査した結果について、その主な内容を述べます。

## 2. 国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（主なもの）

### (1) 実施件数

国土交通省地方整備局における総合評価方式のタイプ別（簡易型・標準型・高度技術提案型）件



(注) 1. 国土交通省8地方整備局における実施件数  
2. 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合

図 1 国土交通省直轄工事における総合評価方式の年度別・タイプ別の実施件数

数の年度ごとの推移を図 1 に示します。

平成17年度以降、実施件数および総合評価方式の適用率（随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合）は増加し、適用率は平成19年度および20年度でほぼ100%の状況となっております。

なお、平成20年度において、前年度より簡易型で実施件数が減少し、標準型の実施件数がほぼその同程度増加しています。これは、平成20年度より標準型について、「難易度の高い技術が必要な技術提案を求める場合には『標準型（Ⅰ型）』を適用し、求めない場合には『標準型（Ⅱ型）』を適用する」こととしたことにより、従前では簡易型を適用していた工事の一部が標準型（Ⅱ型）へ整理されたためと考えられます。

(2) 入札価格と技術評価点得点との関係で見た落札者の状況

国土交通省地方整備局の主な工種（一般土木、アスファルト舗装、プレストレスト・コンクリー

ト、鋼橋上部。以下「主要四工種」という）の工事について、「入札価格（最低価格、最低価格以外）」と「技術評価点の得点（最高得点、最高得点以外）」との関係で落札者の割合を年度ごとに整理した結果を図 2 に示します。

技術評価点の最高得点者（最低価格者以外）が落札した割合を見ると、簡易型、標準型とも、平成18年度に対して平成20年度は増加しており（簡易型：14.5%（平成18年度） 28.2%（平成20年度）、標準型：20.3%（平成18年度） 38.3%（平成20年度））、このことから価格以外の要素をも考慮した工事の契約がなされていることが読み取れるものと考えられます。

(3) 配点率で見た技術評価の実施状況

国土交通省地方整備局の主要四工種の工事について、評価項目の合計点に対する評価項目ごとの配点の割合（以下「配点率」という）を地方整備局ごとに整理した結果を図 3 に示します。

簡易型においては評価項目「簡易な施工計画」

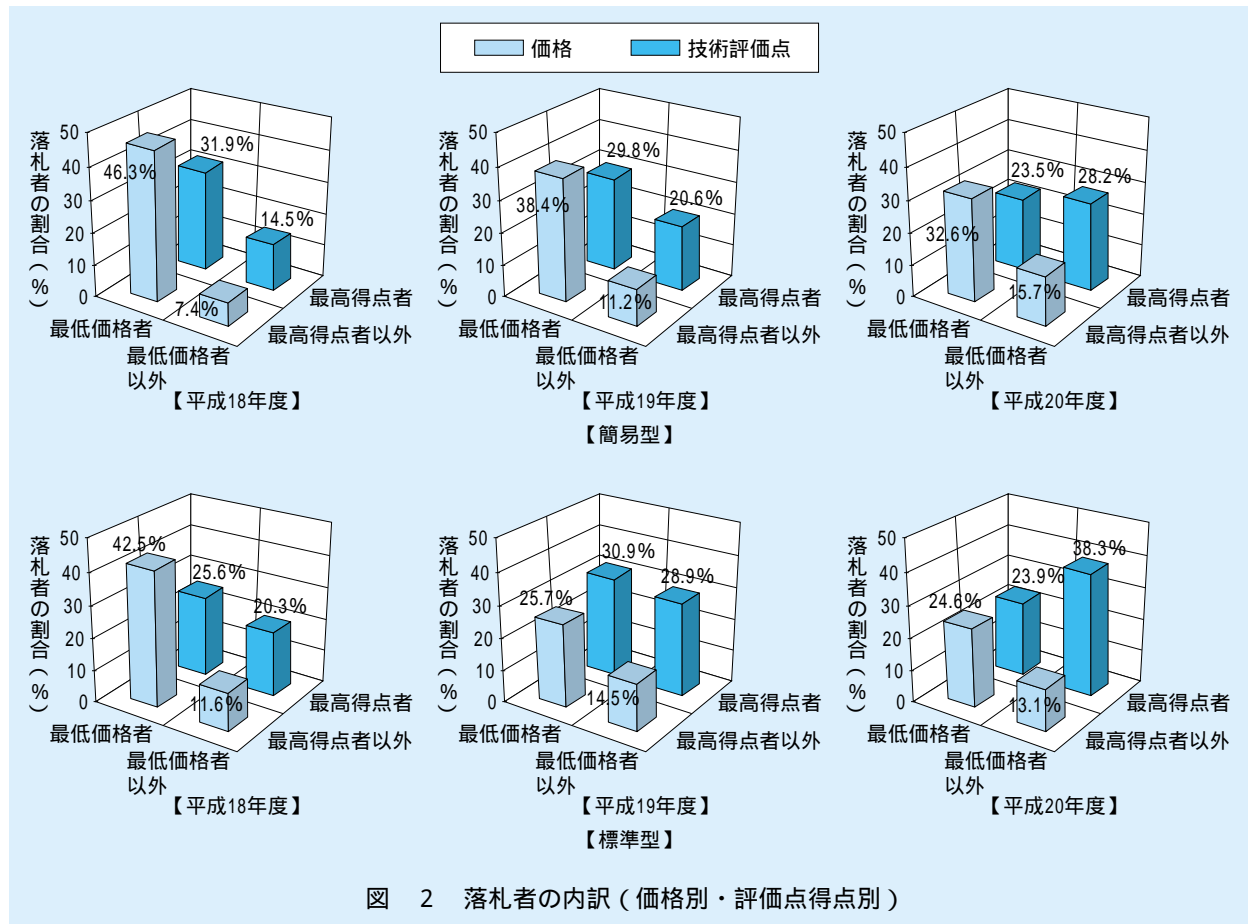


図 2 落札者の内訳 (価格別・評価点得点別)

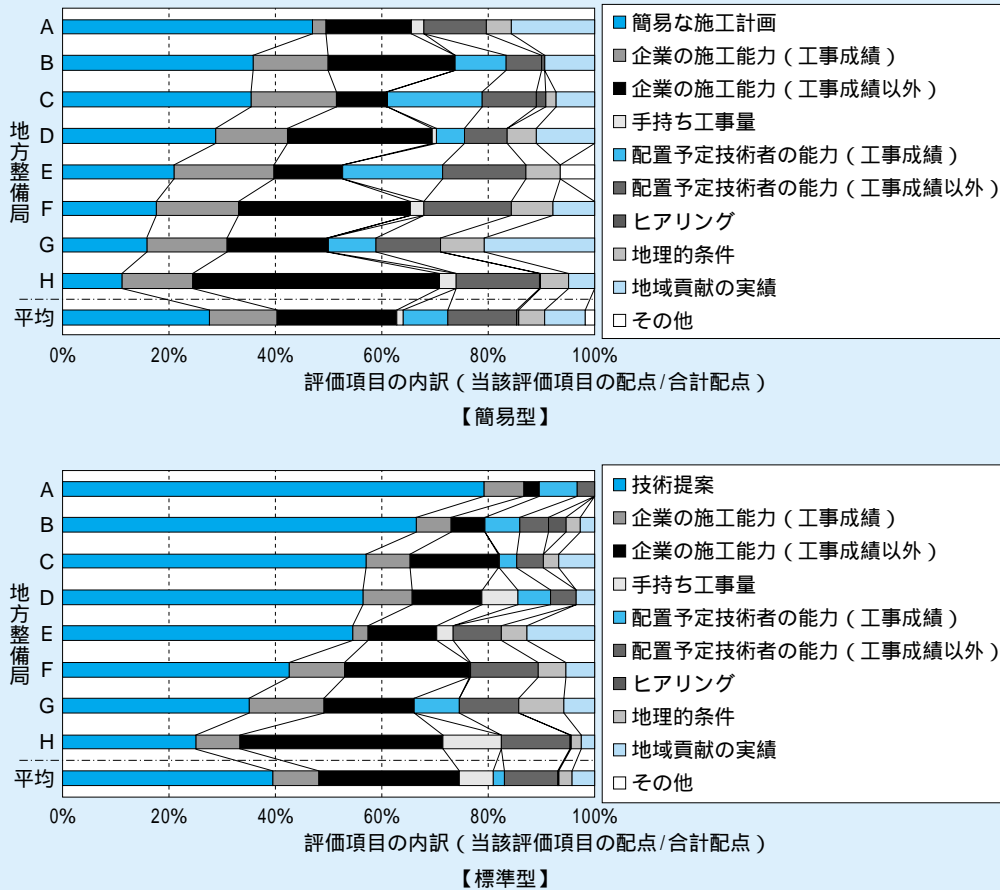


図 3 評価項目ごとの配点率

の配点率が地方整備局によって1～5割に設定されており、標準型においては技術提案の配点率を8割程度とする地方整備局もあれば3割を下回る地方整備局もあります。また、簡易型、標準型とも、評価項目「企業の施工能力」の配点率を高く設定する地方整備局もあれば、評価項目「企業の施工能力」と評価項目「配置予定技術者の能力」を同程度に設定している等、地方整備局の間で配点率に相違が見られます。

このような技術評価に関する配点率の状況も踏まえ、評価項目ごとの配点のバランスに配慮することが求められているところです。

#### (4) 実績重視型の実施状況

国土交通省においては、平成20年度末より、受発注者双方の入札契約手続きに伴う時間・事務負担の軽減を図るため、簡易型を適用する工事のうち、比較的小規模で施工計画の工夫の余地が少な

くこれまでに施工した同種・類似工事の実績で施工の確実性を十分評価できる工事について、「簡易な施工計画」の提案や配置予定技術者のヒアリングを実績評価で代替する簡易型（実績重視型）を暫定的に実施しました。

「実績重視型以外の簡易型」と「実績重視型」の公告日から入札日までの平均所要日数（地方整備局と全体）を比較したものを図4に示します。実績重視型を導入していない工事と比べ、実績重視型を導入した工事では、半数の地方整備局において平均所要日数が2週間以上短縮しており、6割程度まで短縮する結果となっています。

また、「実績重視型以外の簡易型」と「実績重視型」の工事の品質に関する一つの指標である工事成績評定点の件数割合の分布を図5に示します。「実績重視型」の方がピーク付近での件数割合が高く、「実績重視型以外の簡易型」の方が工事成績評定点の分布が広範囲となっている傾向で

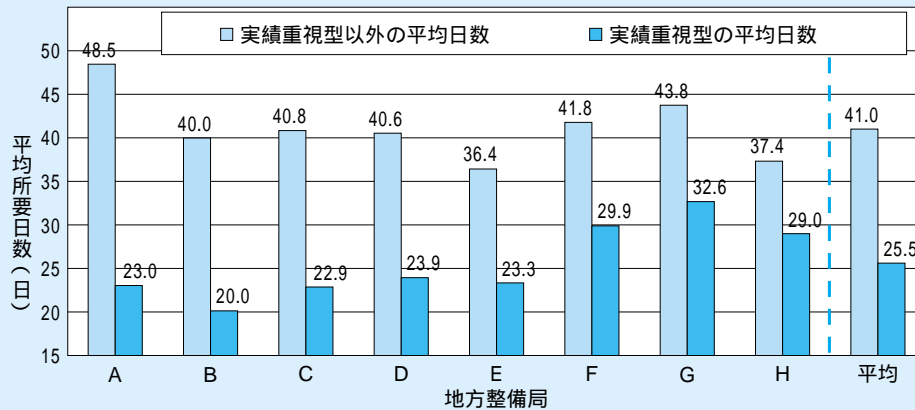


図 4 公告日から入札日までの平均所要日数 (地方整備局ごととその平均)

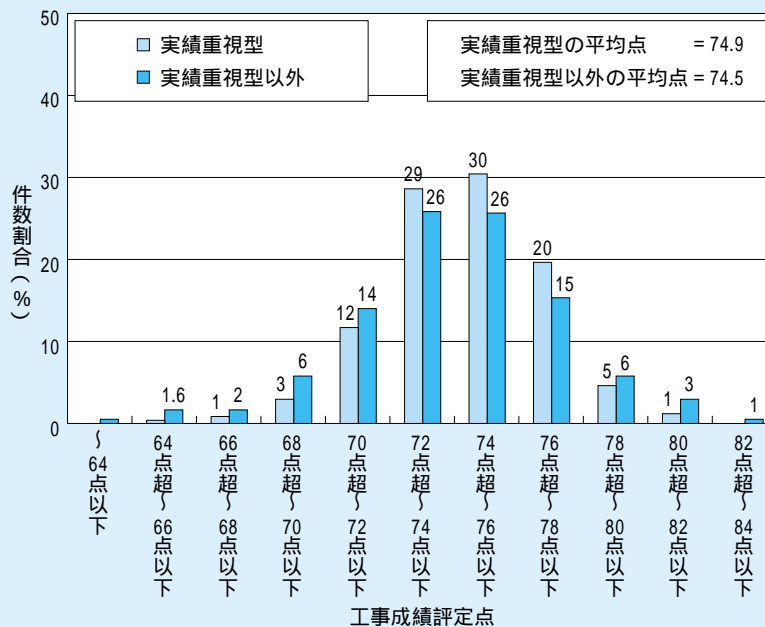


図 5 工事成績評定点の件数割合の分布 (実績重視型とそれ以外)

はありますが、平均点を比較すると両者とも75点程度です。

このように、実績重視型は、工事の品質を確保しつつ、入札契約手続きに要する時間を軽減する一方策として有効であるものと考えられます。

### 3. おわりに

本稿で述べた国土交通省直轄工事における総合

評価方式の実施状況については、「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」(座長：小澤一雅 東京大学大学院工学系研究科教授)においても検討されております。

当該懇談会におけるこれまでの検討内容については国土技術政策総合研究所のホームページ (URL : <http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>) に掲載されていますのでご参照ください。